

堤 掌を上向けて五指の指頭を左にさした右手の五指をこまかく波打たせて右へ移行させ即ち水面を表わし、同時にその水面を囲うように、掌を内側にして五指の指頭を右にさした左手を右から左へと堤を描く。

常に「毎日」「いつも」と同じ手まね。

燕 「鳥」を表わして、掌を下に向け五指の指頭を左にさした右手で素速やかに飛ぶ燕の運動を空間に描く。

妻 「夫」と同じ要領で女性（小指）を一方の人差指で指す。

爪弾じき 掌を上向けて五指の指頭を前方にさした左手の上に、掌を内側にして五指の指頭を下にさした右手を直角につけ、その指頭を左手の上にある物を掃き捨てるように前方へ弾じき出す。「排折する」と云う意味にもなる。

つまらない 掌を右側にした左手の指頭を

前方にさした人差指の上に、掌を下向けにし



五指の指頭を左にさした右手をたたき降して、上から左手を被うように五指を彎曲させる。

先が僅かに前に出る。「なんと、それだけしかないのか……つまらない」との意味。

任 罪 (イ) 悪い——行い。(ロ) 悪い——責

詰襟服 両手の夫々人差指と親指の間を詰襟の高さにひろげ、その指頭を頸の後から左右夫々前へ廻し、咽のところで、ボックをかける真似。(左手の人差指と親指を小さく輪にした中へ右手の人差指をさし込む)、次に左右何れかの手の人差指と親指を輪にしたの

を、ぼたんを表わすつもりで、胸の上部から下へ所々につけて行く。

冷たい 「寒い」と同じ手まねをして、両手を口許にもって行きかじかんた手を温めるように息を吐きつける。

露 朝——草——葉——水——玉。水玉は右手人差指と親指で小さく輪にしたのを、左手「葉」の上の所々に置いて見せる。

梅雨 (イ) 六月、七月——毎日のように——雨。  
(ロ) 梅——雨。

強い 拳にした右手の腕を肘で、たてに曲げて力縮を入れる身振り。

貫く (イ) 掌を前向けた左手の人差指と親指でつくった輪の中に右の人差指を突き通らせる。(ロ) 志(思い)を貫く。右手の人差指で腹部を指し(志)次にその手の五指の指頭を前方直角にさし掌を左側にして、まっすぐ前方へさし出して行く。

釣 指頭を前方にさした両手の人差指を一つの直線になるようにならべ(長い釣竿)魚を釣り上げる身振。

均合う 「叶う」「似合う」と同じ手まね  
釣鐘 種木から垂らした綱を両手で肩の辺で握り、鐘をつく身振。

鶴 口許で掌を前に向け指頭を前方にさした人差指の(僅か下に上部第一節のところ)親指の指頭をつけ、烏のくちばしの形をつくり、鶴の首の長さを表わすために、肘をたてに曲げてその手を少し上へ上げて、次に両手で羽ばたく身振。

雙 全雙の場合。両手の掌で左右夫々の耳を塞ぐ。(ロ)難聴の場合。右手で右耳たぶを後から囲み、首を右に傾しげて聞こうとする身振り。